



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第19号

2024年2月9日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

緒川小学校での学び

1月30日（火）、緒川小学校に将来教員を目指す大学生が31名来校しました。大学の先生、そして緒川小の先生から「町内のSPさんも、よければ参加してください。一緒に活動したり、講義を聞いたりして、研修の機会にしてもらえたらと思います。」と仰っていたとき、ご厚意で5名のSPさんも参加させていただきました。



午前中、まずは校内を自由に見学しました。あちらこちらで、学生さんの「わあ～!」「へえ～!」という驚きの声が聞こえてきました。そして、迷子になる学生さん（SPさん）も……（笑）“普通の学校”とは違う作りをしていると、身をもって感じられたのではないかと思います。

大放課には、子どもたちとなわとびをしました。この日参加したSPさんは、ウィークリーSPとして活動しているSPさんも多くいました。初めて会う子どもたちにも積極的に声をかけていました。そして、あっという間に子どもたちに囲まれ、手を引かれるSPさんもいました。子どもとの関係づくりの“コツ”や“きっかけづくり”の技をそれぞれ持っているのでしょうか。さすがの一言につきます。

大放課が終わると、各教室で授業に参加しました。SPさんにとっては、ウィークリーSPの活動と同じですが、普段活動している学校とは違う「学校の雰囲気」「指導方法」「先生方の声かけ」「子どもたちの様子」を敏感に感じ取っていました。あるSPさんの感想を一部抜粋します。

自分の知っている学校と構造や雰囲気が全然違って、本当にびっくりしました。その分、どこまでがOKで、どこからがダメなのか、子どものこの行動は注意すべきものなのかが分からず、自分自身の課題だと感じました。また、子どもたちと関わることも大事ですが、今日先生方のお話を聞いて、大学生の内にいろいろな方と関わっておくことも大切だと感じました。今日受けた刺激を忘れず、現場に出るまでに自分の教育観をアップデートしていきたいです。



お昼を挟み、午後からは質疑応答タイム。みんな積極的に質問していました。疑問を持って“観る”から、質問が出てきます。良い質問もたくさん飛び出しました。

その後は、3つのグループに分かれて学習材の作成をしました。教師の仕事は、「教える」だけではありません。子どもが学ぶために、学習環境を整えるのも教師の仕事です。子どもの頃には見えなかった、「地道で細かい作業」がたくさんあるのを学べたのではないかと思います。



最後は、校長先生・教務主任・若手の先生方・町授業アドバイザーから「これからの教育について」、たくさんお話を聞かせていただきました。とにかく、密度の濃い一日だったと思います。それだけに、学びも多い一日になったのではないかと思います。先生方の熱い思いから、教師の仕事にさらに興味を持ったり、まずはボランティアに参加してみたいと思ったりした学生さんも多くいたのではないかと思います。出会いは一期一会。貴重な機会・出会いだったことと思います。

この日、教務主任の先生がとても素敵なお話をしてくださいました。それを共有して、SP通信 第19号を締めたいと思います。

「教師は、物を売ったり作り出したりする仕事ではないです。けれど、人を幸せにする力が教師にはあります！」

とっても素敵なお言葉ですね。これを聞いた学生さんの顔は、みんなキラキラしていました。大変なことばかりがメディアでは報道されていますが、人を幸せにできる“教師”という仕事をもっともっと社会に伝わったらいいなと思いました。

